

令和7年度第1回北秋田市総合教育会議 会議録

1. 開催期日 令和7年5月22日(木)
2. 開催場所 北秋田市役所第二庁舎 大教室
3. 開会及び閉会 開会：午後1時30分 閉会：午後2時36分
4. 出席者 北秋田市長 津谷 永光
<北秋田市教育委員会>
教育長 佐藤 昭洋
職務代理者 佐藤 英樹
委員 佐藤 正俊
委員 蒔苗 隆
委員 藤本 基子
5. 欠席委員 なし
6. 出席職員 <教育委員会事務局>
教育次長：金澤 誠 教育総務係長：櫻田 正明
教育総務課長：池田 恒平 学校給食係長：笹代 孝徳
学校教育課推進監：高橋 裕樹 学校教育係長：金 幸子
学校教育課推進監：成田 正子 文化財係長：渡辺 靖光
生涯学習課長：山本 明美 教育総務係(書記)：藤本 来夢
7. 案件 (1) 北秋田市幼保小架け橋プログラムの推進について
(2) 令和7年度 主な教育施策について
(3) 意見交換

8. 会議録

(午後1時30分 開会)

金澤教育次長	ただいまから、令和7年度第1回北秋田市総合教育会議を開会いたします。 初めに、津谷市長より挨拶をお願いいたします。
津谷市長	皆さん、大変お忙しい中、令和7年度第1回目の北秋田市総合教育会議にご出席 いただきまして、誠にありがとうございます。

佐藤教育長	<p>が続きました。それでも、私が訪問した学校では、子どもたちは元気いっぱい、笑顔で競技に参加しておりました。今月 25 日と 31 日には、鷹巣中学校と阿仁学園で体育祭が開催される予定です。ここでも、子どもたちが精一杯取り組む姿を見られることを楽しみにしております。</p> <p>また、市内 4 つの高齢者大学では、新しいメンバーを迎えて入学式・開講式が終了しました。学校教育、生涯学習ともに、新年度の活動がいよいよ本格的にスタートしたと感じております。</p> <p>一方で、昨今は他県において、児童が被害に遭う交通事故や、教職員が巻き込まれる学校事故のニュースが相次いでおり、不安定な社会情勢を感じております。本市ではここ数年、登下校中の児童生徒に関する交通事故が発生しておらず、これはスクールガードをはじめ地域の皆様のご協力のおかげであると強く感じております。4 月 6 日からの全国交通安全週間では、阿仁学園を皮切りに、市内の小学校および義務教育学校 7 校を朝の登校時に訪問し、子どもたちと挨拶を交わしました。上級生や地域の方々に見守られながら、黄色い帽子の 1 年生も元気な挨拶ができておりました。昨年度 1 年間は不審者情報もなく、本市の子どもたちの安全がしっかり確保されていると感じております。地域の皆様、教職員、そして関係機関の方々には心より感謝申し上げます。</p> <p>ただ、ここ 2 年間は熊や猿などの野生動物の出没が相次いでおります。今後も保護者への迅速な情報提供や関係機関との連携を通じて、安全確保に努めてまいりたいと考えております。</p> <p>本日の総合教育会議では、教育委員会の今年度の主な教育施策、そして先ほど市長の挨拶にもありました「架け橋プログラム」について、事務局からご説明申し上げます。委員の皆様には、忌憚のないご意見をいただけますようお願い申し上げます、私のあいさつといたします。</p>
金澤教育次長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、案件に入らせていただきます。「北秋田市総合教育会議運営要綱」により、議長は市長が行うこととなっておりますので、津谷市長に案件の進行をお願いいたします。津谷市長、よろしく願いいたします。</p>
津谷市長	<p>要綱に基づいて、議長を務めさせていただきますので、皆様のご協力をお願いいたします。</p> <p>初めに、案件（1）北秋田市幼保小架け橋プログラムの推進について、学校教育課成田推進監より説明をお願いします。</p>
成田学校教育課推進監	<p><成田推進監、幼保小架け橋プログラムについて説明></p>
津谷市長	<p>ただいま説明のありました内容について、委員の皆様からご意見、ご質問等ござ</p>

津谷市長	いませんか。
藤本委員	<p>北秋田市にいますと、北秋田市の良い取組が当たり前になってしまい、その良さに気づきにくいところがあります。ママ友などに話を聞くと、他の地域との違いを感じる事が多く、今回のこの「架け橋プログラム」の充実は、子どもたちの困りごとの解消につながる大切な取組だと実感しています。少しのサポートでぐっと伸びる子もいれば、サポートがないことで迷いや悩みを抱えてしまう子もいると思います。保育園と小学校の連携は、子どもだけでなく、保護者にとっても大きな意味があることですし、また、保育園や学校の先生方にとっても、やりがいや達成感につながる大切な取組だと感じました。</p>
佐藤英樹委員	<p>先日、小学校の校長先生とお会いした際、「今年の1年生は、これまでの1年生と違って非常に堂々としていて活発だ」とのお話を伺いました。その理由を尋ねたところ、「幼保小架け橋プログラム」で、事前に幼稚園・保育園・認定こども園に小学校の先生方が出向いたり、逆に子どもたちが小学校を訪問して活動したりすることで、入学前から学校に親しみを持っていたのではないかとのことでした。確かにそうした取組が、子どもたちの落ち着きや積極性につながっているのだと思います。このプログラムの推進により、担当の先生方の努力が将来の子どもたちの学びに大きく影響してくると思いますので、今後ともぜひ充実・発展させてほしいと感じております。</p>
佐藤正俊委員	<p>教育委員を務めて17年目になりました。子どもたちの成長の様子を見るのがいつも楽しみです。小学校の入学式のときには毎年「ああ、変わってきたな」と感じます。何が変わったかという、子どもたちの様子です。先生のお話を聞けなくなっている子どもが多くなっているように感じています。先ほど成田先生からお話がありましたが、そのあたりの情報の連携が大事なところなのだと思います。保育園や幼稚園の先生が「先生のお話をしっかり聞こうね」と教え、小学校に入ったときにその姿勢が身につけていることが理想です。背筋を伸ばして校長先生のお話をしっかり聞いている姿が、だんだん少なくなってきたように感じていました。例えば、鷹巣東小学校区では、保育園と小学校がすぐ近くにあり、合川保育園も小中学校と同じ学区の中にあります。連携しやすい環境にありながら、どうもスムーズにいけない印象を受けていました。今回このようにすばらしい資料を作成していただき、ありがとうございます。こうした取組をしっかりと進めていただき、今後の保育園や幼稚園教育、そして小学校低学年の教育に生かしてほしいと思います。</p> <p>ただ、資料については、少し見づらい部分もありました。例えば2ページ、私は白内障の手術を来月予定しているのですが、虫眼鏡を使って拝見しても理解しづらいところもありました。今後いろいろなお話を伺いながら、私自身も勉強してまい</p>

佐藤正俊委員	<p>りたいと思っています。</p> <p>子どもの成長を見ていく上で、何を中心に考えていくかという点ですが、北秋田市の恵まれた大自然の中で、どのように自然と関わっているのか、そこが大切ではないかと感じています。例えば「命は自分で守るんだよ」と言いながらも、「川遊びは駄目」「虫に触っては駄目」と禁止が多くなっているように思います。安全に配慮しながらも、自然と触れ合う経験を通して命の大切さを教えていくことが必要ではないでしょうか。私は今、リフレッシュ学園の子どもたちを中心にしていますが、先日、カヌーや川下りなどの活動を予定した際に、全員が「泳げない」と答えました。保育園での水遊びや小学校の水泳の授業で少しずつ身につけていくものだと思いますが、幸い北秋田市では全ての小学校にプールがあります。これを活用して自分の身を守ることをしっかり教える指導をしていくことが大切です。</p> <p>また、学園では「田沢湖一周サイクリング」を計画していましたが、子どもたちが自転車に乗れないという理由で中止になりました。これは架け橋プログラムとは直接関係しませんが、家庭でも学校でも、安全教育として自転車や交通に関する指導をもっと丁寧に行うことが必要だと感じます。実際、現在は事故も多く、学園の子どもたちに対しても、乗れない子が乗れるように指導したところ、今では放課後になるとヘルメットをかぶって楽しそうに自転車に乗るようになりました。おそらく子どもたちにとって、世界が広がったように感じていると思います。そうした経験を通して、次は安全に乗ることを教える必要があります。実際の道路に出て「ここでは一時停止するんだよ」といった小さな指導を積み重ねていくことが重要です。そうした学びを保育園・学校・地域が連携しながら進めていくことが、今後ますます大切になってくると思います。以上、意見とさせていただきます。</p>
津谷市長	<p>ありがとうございました。3人の委員からさまざまなご意見をいただきました。特に佐藤正俊先生からは、ご自身の体験も交えて貴重なお話をいただきました。今後、この「架け橋プログラム」を進めていく上で、今日いただいたご意見をしっかりと参考にしながら取組を進めていければと思います。</p> <p>大変恐縮ですが、時間の関係もございますので、次の案件に移りたいと思います。案件（2）令和7年度主な教育施策について、各担当課長から説明をお願いします。</p> <p>教育総務課長、学校教育課長代理高橋推進監、生涯学習課長からお願いします。</p>
池田教育総務課長 高橋学校教育課推進監 山本生涯学習課長	<p><教育総務課長、学校教育課高橋推進監、生涯学習課長による資料説明></p>
津谷市長	<p>ただいまの説明について、何かご意見、ご質問等ございませんか。</p>

藤本委員	<p>教育総務課の学校給食についてですが、食材やコストが上がる中で、北秋田市がスピーディーに給食の無償化を実施してくださり、月7,000円ほどの支出が抑えられて大変助かっています。毎月の献立表には、バタもっちのイラストとともに地元食材の提供が紹介されており、それを見ると安心感がありますし、親子で北秋田市の農家や農業に関心を持つきっかけにもなっています。</p> <p>また、私自身、息子の給食を通じて「SISIMASU」という北秋田市の加工品を知ることができました。ホームページで紹介されている給食メニューにも、運動会や子どもの日など、季節やイベントにちなんだ一口メモが丁寧に添えられていて、子どもたちへの愛情を感じます。地元産の食材を確保するためには、量の確保や安定した収穫などご苦労もあると思いますが、ぜひ今後ともよろしくお願いいたします。</p>
池田教育総務課長	<p>これからも頑張ってもらいたいと思います。今お話にありましたように、安定した供給量の確保などについては、今後、意見交換会の場などで関係者と話し合いながら進めていければと考えています。</p>
藤本委員	<p>文部科学省のホームページで確認したところ、東北六県では地場産食材の使用率がおおむね60%程度で、秋田県は37%弱となっていました。現在、北秋田市の地場産使用率はどのくらいでしょうか。</p>
笹代学校給食係長	<p>令和6年度分は現在集計中ですが、令和5年度は県内産が78.8%、北秋田市産は約30%となっております。</p>
津谷市長	<p>北秋田市はよく頑張っていると思います。先ほど話に出た給食メニューのホームページの件ですが、実は私の孫が東京に住んでおりまして、娘が北秋田市のメニューを見たところ北秋田市の子たちがうらやましいと話していました。それだけ内容が充実しており、皆さんの努力の成果が表れていると思います。</p>
佐藤正俊委員	<p>阿仁中学校の解体現場を何度か見に行きました。長年勤めた学校で、特に思い出もあります。古い体育館（阿仁体育館）はすでになくなって、現在は校舎本体の解体が進められています。ただ、現場は白い幕で覆われており、内部の様子はまったく見えません。そのため、作業がどの程度進んでいるのかも分からない状況です。私たちが子どもたちと一緒に作ったものもいくつかあります。例えば花壇です。これは授業の一環で、子どもたちと協力して作ったものでした。また、卒業生が記念として残した庭や石碑もあります。こういったものは、今後どうなるのでしょうか。すべて撤去されてしまうのか、それとも別の場所へ移設されるのか、気になっています。</p>
櫻田教育総務係長	<p>今後の計画では、解体が終わった後、地区の体育館の駐車場として利用させてい</p>

櫻田教育総務係長	ただ今計画になっています。
佐藤正俊委員	ということは、石碑や校訓もなくなってしまうのでしょうか。
櫻田教育総務係長	学校の前にある校訓については、体育館の脇に移設する予定です。ただ、花壇などについては、現時点では残念ながら撤去される計画です。
佐藤正俊委員	子どもたちと一緒に作ったもので、卒業記念として残るものもあるため、それがどうなるのか気になって質問させていただきました。
津谷市長	どうしても敷地やスペースの都合があるので、撤去せざるを得ないものも出てくると思います。ちなみに、私自身も小学生時代に過ごした校舎は建て直すこともできず、みんなで作った庭もすべてなくなってしまい、当時埋めたものも行方が分からなくなってしまいました。
佐藤英樹委員	昨年の総合教育会議だったと思いますが、学校視察を行った際に電子黒板を見て、とても素晴らしく、高価ではありますが教育効果が高いと感じました。そこで市長に対して、ぜひ現場に多数導入してほしいとお願いしました。本日の総合教育会議でも推進監から説明があったように、今年度は電子黒板を活用した教育の展開が見られるとのことで、非常に楽しみにしています。今後も有効な利活用を推進していただきたいと思っています。
藤本委員	今週の月曜日、息子のクラスで教科担当の先生が急きょお休みになりました。その際、校長先生が「きらり☆きたあきた」を持って授業に入ってください、クイズを交えた楽しい授業をしてくれたと、息子が話していました。このように「きらり☆きたあきた」を常に大切にして、柔軟に対応できているのは素晴らしいと感じました。
高橋学校教育課推進監	昨日、東小学校からも、PTAのときに「きらり☆きたあきた」を教材にして授業参観をやらせてもらえませんかと電話で相談がありました。森吉中の小林校長先生は「きらり☆きたあきたチャレンジ検定」の制作にも関わった方ですので、森吉中での対応ができたと思いますが、私たちは私たちで、どのような形で取り組めるかを考えていけたらと思っています。
津谷市長	それはPTAの方々を対象にしたものですか。
高橋学校教育課推進監	昨日の話では、児童と保護者が一緒に参加するものです。

津谷市長	<p>それはいいですね。「きらり☆きたあきた」は一般市民の方々が購入できないものなので、子どもたちには触れる機会があっても、大人にはなかなか触れる機会がありません。そういった機会が設けられるのは非常に意義深いと思います。PTAの方々だけでなく、地域の集まりなどでも、子どもたちと一緒に学べるような場があると良いと思っていました。</p>
佐藤教育長	<p>最近活動も少しずつ広がっていて、「きらり☆きたあきた」の中から50問出題される「きらり☆きたあきたチャレンジ検定」という検定があります。初回は参加者も少なかったのですが、3回目で少しずつ定着してきているようです。私は1問間違えて「博士」でしたが、満点だと「大博士」になります。今は3訂版まで作成しており、次の改訂時には、一般の方々にも利用できるような形を検討できたらと思っています。ただ、著作権の問題が大きなハードルになっており、提供いただいた資料はあくまで子どもたちへの教育目的でご協力いただいたものです。販売や公開には事前の説明がされていなかったため、慎重に検討が必要です。現在も新一年生には毎年配付していますし、他地域から転入された先生方にも配付していますので、ぜひ効果的に活用していただければと思っています。</p>
津谷市長	<p>非常に良い教材だと思いますし、先ほどの「大博士」に選ばれた子どもたちが、逆に大人を生徒にして、地域の良さをPRするような機会があっても面白いのではないのでしょうか。著作権の問題がある場合でも、子どもたち自身が教材を使って大人に教えるという形であれば、可能性が広がると思います。ぜひそういった活用の工夫も検討していただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。</p>
佐藤正俊委員	<p>「きらり☆きたあきた」の資料は、リフレッシュ学園でも活用しています。一昨日は、さかさ杉を見学して、そのあと（米内沢の）根小屋まで行き、水路や農業について学びました。たとえばその水路がどこまで続いているのかという学びの中で、木戸石まで続いていると知り、今度は木戸石まで行って、川井地区の佐藤農業さんに田植えの様子を見せていただき、説明もしていただきました。このように「きらり☆きたあきた」は非常に良い教材だと感じていますので、各学校でもしっかりと活用していただきたいと思います。</p>
津谷市長	<p>ありがとうございます。皆さんからの様々なご意見・ご提言については、ぜひ今後の施策に活かし、次年度にもつながるような継続性のある取り組みを進めていただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは次に、(3)の意見交換に入ります。特にテーマは設けませんので、北秋田市の教育について日頃感じていることや、ご意見などがあれば自由にお話いただければと思います。これまでも多くのお話をいただいておりますが、引き続きよろしくお願ひいたします。</p>

佐藤正俊委員	<p>教育委員会でも何度かお話しさせていただきましたが、私は通勤途中、毎日阿仁学園の校舎を眺めながら、グラウンドの整備状況を見ています。以前も「このグラウンドはどうなっていくのか」と質問させていただいたところ、「これからしっかり完成させていきます」というお話をいただいていた。そして今回の大雨のあと、改めてグラウンドの様子を見に行ったら、とても良い状態でした。水はけが非常に良く、水たまりもなく、周囲には防草ネットのようなものが張られており、土が側溝に流れ込まないように工夫されていました。トラックにはラインがきちんと引かれており、早朝にはすでに一回目の練習も始まっていました。その様子も見て、とても嬉しく感じました。駐車場も真新しく、白線がしっかりと引かれ、アスファルトも綺麗に整備されており、凹凸ありませんでした。この状態であれば、31日の体育祭がとても楽しみだなと思って見ていました。地域の方々も、きっと驚かれるのではないかと思います。これはまさに、市を挙げて取り組んでいただいた成果だと思います。ぜひ市長さんにも足を運んで、見ていただきたいと思っています。</p>
津谷市長	<p>日程調整を検討したのですが、厳しい状況でした。申し訳ありませんが、メッセージのみでご容赦ください。</p>
佐藤教育長	<p>市長も出席を予定して動いていたのですが、別の行事が入ってしまい、今回は欠席となってしまいました。</p>
佐藤正俊委員	<p>本当に素晴らしいと思います。市民にとってもありがたいことですし、校舎全体が整い、グラウンドも完成し、教育環境がしっかり整備されてきたと実感しています。</p>
津谷市長	<p>ありがとうございました。他にご意見等はございませんか。</p>
佐藤英樹委員	<p>総合教育会議の場でふさわしい話題かどうか分かりませんが、県内の各市町村では、高校を支援する協議会が立ち上がっているそうです。近くでは鹿角高校、ほかにも、にかほ市や羽後町でも、たった一つの高校を存続させようという動きが出てきているようです。北秋田市には北鷹高校という唯一の高校がありますが、市議会議員や商工会関係者の方から、「北鷹高校を応援している地域の方々を、市として何らかの形でバックアップできないか」という意見を伺いました。具体的には、たとえば北鷹高校の近くの菅原館では、自宅を改装して下宿先として提供し、生徒たちを受け入れて支援しているといった活動があるそうです。そうした企業や団体が市内に複数あるとのことでした。このような地域の取り組みを、市として何らかの形で支援できる制度があればということ、関係者も近々会議を開く予定です。</p>

佐藤英樹委員	<p>ぜひ教育関係者の皆さんにもこの動きを知っていただき、今後このような意見が出た際には、前向きに検討いただければと思います、お話しさせていただきました。</p>
津谷市長	<p>菅原館さんは、スキー部や陸上部の生徒も支援していると聞いています。おっしゃるとおり、我々が把握しきれていないところで、地域の方々が応援してくださっていることがあると思います。また、伊勢町の方々は災害時に北鷹高校を避難所として利用しており、地域との結びつきは強いと感じています。今後、リサーチも必要かもしれません。</p>
佐藤教育長	<p>生涯学習の視点では、コムコムも含めて、北鷹高校の生徒に奨励員として参加してもらっています。やはり北鷹高校と連携した教育は必要であると私たちも感じています。生涯学習の分野でも連携を進めており、今後は小・中学校で学んできたことが高校としっかりつながるよう、さらに工夫が必要だと感じます。架け橋プログラム第二弾ではないですが、高校との連携についても、もう少し考えていく必要があると思います。</p>
佐藤英樹委員	<p>市議会議員の方々も、「たとえ他県から来た生徒であっても、北秋田市に残って市のために尽力してくれる子どもたちがいるはずだ」と話していました。そういった将来を見据えると、地域で支援してくださっている方々を大切にしていかなければならないと、私も感じました。</p>
津谷市長	<p>北鷹高校には高校留学として、スキーを目的に来ている生徒もいますが、それ以外にも緑地環境科など、都会の子どもたちが興味を持つような分野もあります。実際に、林業に興味を持って北秋田市へ来る子どもたちもいて、将来的にこの地域で就職し、移住・定住につながっていくようなケースも期待できます。そういった流れが生まれれば非常にありがたいことだと思っています。</p> <p>それでは、予定の時間が近づいてまいりましたので、意見交換はここまでとさせていただきます。本日も多くの貴重なご意見をいただきました。これらをもとに、次年度につながるような施策の検討・推進をお願いできればと思います。</p> <p>本日の案件がすべて終了いたしましたので、進行を事務局にお戻しします。</p>
金澤教育次長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて、「その他」でございますが、なにかございますか。</p> <p>なければ、事務局からお知らせいたします。本日の資料と別に北秋田市の教育の暫定版を配付させていただいております。各種委員会審議会について、今年度の大半が未開催のため、資料が未完成となっているものでございますので、完成品ができるまで、参考としてお持ちくださいますよう、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは以上をもちまして、令和7年度第一回北秋田市総合教育会議を閉会いた</p>

金澤教育次長	します。 本日は誠にありがとうございました。
--------	---------------------------

(午後2時36分 閉会)